

民数記 6 : 22～27

ルカによる福音書 24 : 50～53

「祝福」

【前奏】

【招詞】 イザヤ書 42 : 9～10a

【祈祷】

【聖書】 民数記 6 : 22～27、ルカによる福音書 24 : 50～53

【説教】「祝福」

<復活の後で>

ルカによる福音書の最後は、復活なさったイエスさまが天に上げられる場面で終わります。ルカはこれまで、救い主であるイエスさまの御業を語ってきました。

イエスさまは、神の御子でありながらまことの人となってお生まれになりました。

そして、ご自分の十字架の死によって、わたしたちの罪を担い、神の裁きを代わりに引き受けて下さり、贖いのための犠牲となって下さったのです。

しかし、十字架の死から三日目に、イエスさまは復活の栄光の体をもってよみがえられました。イエスさまの復活は、わたしたちの罪の贖いが成し遂げられたこと。そして、死に勝利して下さり、わたしたちへの死の支配を打ち破って下さったことを示しています。

こうして、旧約聖書の時代から預言されていた、神さまの救いのご計画を、イエスさまが実現して下さったのです。この方こそ、メシア。わたしたちの救い主です。

そして、最終章である 24 章では、復活なさったイエスさまが、弟子たちの目の前に現れて下さったことが語られてきました。

しかしその弟子たちは、イエスさまが十字架で死に、葬られたことをその目で見ていますので、復活を中々信じる事が出来ません。そんな弟子たちにイエスさまは、聖書を説き明かし、交わりの食卓を共にし、彼らの心の目を開いて、信じる者として下さったのです。

信じる者とされた弟子たちは、これからイエスさまの十字架と復活の出来事を、あらゆる国の人々に宣べ伝えるために、証人として立てられ、世界へと派遣されていきます。

しかしその前に、イエスさまは聖霊を送って下さることを約束し、エルサレムに留まっているようにと言われたのです。

今日の場面は、その後の場面であり、ここで復活のイエスさまは天に上げられます。

そして、その後に、ペンテコステ、聖霊降臨の出来事が起こるのです。

ルカは、イエスさまが天に上げられる場面の詳細と、その後に聖霊が降るペンテコステの出来事は、ルカによる福音書の第二巻にあたる、使徒言行録に記しました。ですから、今日語られる、福音書の最後のイエスさまが天に上げられるシーンは、とても短く簡潔です。

今日の箇所を読むと、まるで復活なさったその日のうちに、イエスさまは天に上げられたように思えてしまいます。しかし、使徒言行録によれば、イエスさまは復活なさってから天に上げられるまで、四十日もの間、弟子たちに現れ、神の国を教え、食事を共にされていたのです。

ルカはそのような詳細を、次の使徒言行録にすべて譲りました。そして、今日の最後の箇所では、福音書の締めくくりとして書き記すべき重要な事柄だけを、厳選して語ったのです。

<イエスさまの祝福>

今日の場面は大きく二つです。天に上げられるイエスさまの場面と、その後の弟子たちの場面です。まず、イエスさまの場面は、50～51節に語られています。

「イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。」

天に上げられる時、イエスさまは手を上げて、ここは「両手」という単語ですが、そうして弟子たちを祝福なさいました。そして、祝福しながら弟子たちを離れ、天に上げられたのです。

弟子たちの目に映ったイエスさまの地上最後のお姿は、自分たちを祝福して下さるお姿でした。こうして、復活の体をもったイエスさまは、人の肉体の目で、そのお姿を二度と見ることは出来ないお方となられたのです。

しかし弟子たちは、いつも天におられるイエスさまが、最後に見たお姿とずっと変わらずに、これからも自分たちを祝福し続けて下さる、という確信を与えられたに違いありません。

<弟子たちの礼拝>

そして、祝福を受け、イエスさまが天に上げられるのを見た弟子たちは、52～53節「彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた」とあります。

彼らはイエスを伏し拝んだ。この「伏し拝む」という単語を、ルカは福音書でも、使徒言行録でも、神さまと、天に上げられたイエスさまに対してしか用いません。つまり、天に上げられたイエスさまを、弟子たちはここで初めて、神と等しい方として伏し拝んだ。礼拝した、ということなのです。

そして、弟子たちは大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた、とあります。

エルサレムは、立派な神殿がある、ユダヤ人たちの宗教と心の拠り所のような都です。

しかし、イエスさまの十字架の死の直後は、弟子たちにとってエルサレムは、恐ろしい、一刻も早く離れ去りたい場所となっていました。実際、何人かはエルサレムを離れたり、あるいはエルサレムにいても、家に閉じこもっていたりしたのです。

なぜなら、このエルサレムは、愛するイエスさまが十字架という残酷な刑で殺された場所となりました。また、エルサレムの神殿には、イエスさまに敵対し、ついに死に追いやったユダヤ人の指導者たちが、いつも集まっています。そこで、弟子である自分たちもいつ捕らえられるか分かりません。

しかし、復活のイエスさまと出会い、聖書の救いが実現したことを悟り、祝福をしながら天に上げられたイエスさまを見届けた弟子たちは、もはやそのような恐れを覆い尽くす、大きな喜びに包まれたのです。

弟子たちは、旧約聖書に記されていた神さまの救いのご計画を、イエスさまこそが実現して下さったと悟りました。神さまが遣わすと約束されていたメシアが、イエスさまであったことを信じました。

そして、この罪の贖いを成し遂げ、死に打ち勝たれたイエスさまが、天にあって、いつも自分たちと共にあり、いつも祝福して下さっているとの確信を与えられたのです。

もはや恐れなどありません。弟子たちは、大きな喜びに満たされて、絶えずエルサレムの神殿の境内にいて、神をほめたたえるようになりました。

この弟子たちの神への賛美の礼拝で、福音書は閉じるのです。

<よい言葉>

さて、今日の箇所にはこのように、天に上げられたイエスさまの祝福と、それに応える弟子たちの礼拝と賛美の姿が語られています。

この箇所のキーワードとなるのは、「祝福」という言葉です。

50 節と 51 節に二か所、まずイエスさまが弟子たちを「祝福した」と出て来ます。

そして 53 節には、弟子たちが「神をほめたたえていた」とあります。

実は、この「ほめたたえる」という単語は、50 節と 51 節の、イエスさまが弟子たちを「祝福した」とある、「祝福する」という言葉と、同じ単語なのです。

この「祝福する」「ほめたたえる」という単語の元の意味は「よい言葉」です。

同じ「よい言葉」という意味の単語ですが、神さまが人間に対して「よい言葉」を語って下さる時には、それは「祝福する」と訳され、人間が神さまに対して「よい言葉」を語る時には、それは感謝や、賛美、「ほめたたえる」という風に訳されるのです。

つまり、今日の場面は、神の御子であるイエスさまと、弟子たちが、「よい言葉」を交わし合う、という場面なのです。

これは、まずイエスさまの「よい言葉」、「祝福」から始まります。イエスさまが語って下さるよい言葉とは、罪の赦しの言葉、命の勝利の言葉、恵みの言葉、救いの言葉です。

この祝福を受けた弟子たちは、イエスさまのよい言葉をいただいて、自分たちもよい言葉を語る者とされたのです。神に感謝し、神をほめたたえる言葉を語る者となったのです。

ここに、神さまと人間との間の、まことに正しい関係、恵みに満ちた関係が、実現しているのです。

神さまは人間をお造りになった時、ご自分の呼びかけに応答する者、神さまと親しく交わり、共に生きる者として創造して下さいました。

しかし、人間は罪のために、神さまから離れ、背き、偶像礼拝をなし、応答をやめ、神さまとの関係を、一方的に破壊してしまったのです。わたしたちは皆、この罪の中に捕らわれていました。

しかし、そこに神さまは、救い主である御子イエスさまを遣わして下さいました。この方の十字架の死によって、わたしたちを罪から解放し、悔い改めへと招き、復活によって勝利を示し、神さまとの恵みの関係を回復させて下さったのです。

イエスさまと弟子たちとの「よい言葉」の応答、祝福と賛美のやりとりは、まさに、神さまと人間の関係の回復が成し遂げられたことを表しています。

こうしてルカは、イエスさまの祝福と、それを受けた弟子たちの、大きなよろこびと、神殿での賛美・礼拝、つまり、まさに救いの実現を記して、福音書を閉じるのです。

<初めと終わり／大きな喜び、神殿での礼拝>

またルカは、福音書全体を、「大きな喜び」と、「神さまへの賛美・礼拝」で囲い込んでいます。実はルカは、福音書の始まりにも「大きな喜び」と「神殿での賛美、礼拝」について、記していました。

まず、「大きな喜び」。これは初めに、イエスさまの誕生の時、天使が羊飼いたちにその知らせを告げた時に語られていました。2:9です。天使は羊飼いたちに言いました。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる」。

イエスさまの誕生。救い主がこの世にお生まれになった知らせ。救い出来事の始まり。この「大きな喜び」は、一番始めに、民全体に先駆けて、野宿していた羊飼いたちに告げられたのでした。

そして、今日の最後のところに、「彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り」とありました。まさにイエスさまによって実現した救いの「大きな喜び」が、弟子たちの上に成就したのです。

そして彼らはこの「大きな喜び」を、聖霊を受けて、あらゆる国の人々に宣べ伝えていきます。天使が告げた「大きな喜び」が、イエスさまの弟子たちの上に実現し、これから世界へと広がっていくのです。

また、「神殿での神さまへの賛美、礼拝」ですが、これは1章の、救い主イエスさまを指し示す、洗礼者ヨハネの誕生の場面で出て来ました。

旧約聖書には、「主に先立って行き、その道を整え」る者が現れるとの預言がありました。その実現として、主に先立つ者として生まれたのが、洗礼者ヨハネです。

ヨハネの父は、神殿に仕える祭司のザカリアでした。彼は妻共々高齢で、天使から自分たちの許にヨハネが生まれるとのお告げを聞いても、それを信じる事が出来ませんでした。そうして疑ったために、ザカリアは、ヨハネが生まれるまでは口が利けなくなったのです。

やがて、とうとうヨハネが誕生し、神殿で割礼が行われ、名前が付けられた時、1:64にはこうありました。

「すると、たちまちザカリアは口が開き、舌がほどけ、神を賛美し始めた。」

神さまの救いのご計画が示され、イエスさまの誕生に先立って、その救いの実現の第一歩目として洗礼者ヨハネが誕生した時、一人の老人である祭司が、神殿で神を賛美しました。

そして、その救いの御業は、ヨハネが救い主であると指し示したイエスさまによって、一歩一歩前進し、とうとうすべての救いの御業がイエスさまによって成し遂げられた時に、今や弟子たちの群れが神殿で賛美をささげ、神をほめたたえるようになったのです。

ルカはこのように福音書の初めから終わりを通して、「大きな喜び」の成就と、救いの御業を通して、神を礼拝し、ほめたたえる者が興され、増し加えられていく様を示しています。

こうして、ルカによる福音書が一貫して伝えようとしていることは、初めから最後まで、大きな喜びの知らせであり、その喜びを受け取って、神を礼拝することへの招きです。

そして、それは救い主イエスさまによって実現し、与えられるということなのです。

<わたしたちの喜びの礼拝へ>

この後、使徒言行録に移ると、聖霊が弟子たちに降るペンテコステの出来事が起こります。そして、神さまの救いの御業が、あらゆる国へと宣べ伝えられる、新しいステージへ進んでいきます。

そこから、場所を超えて、時代も越えて、この大いなる喜びは世界中に告げ知らされました。そして、いつでもどこでも、常に天におられるイエスさまが「よい言葉」を語り、祝福を与えて下さいます。だから今この時代、ここにいるわたしたちもまた、イエスさまの祝福を受けて、救いを信じ、神さまをほめたたえ、大きな喜びの中で礼拝をささげる者とされているのです。

今わたしたちは、主の日毎に礼拝に招かれています。ここで、わたしたちは、旧約聖書の神さまの御心が、イエスさまによって実現したことを聞きます。復活して天におられるイエスさまから、罪の赦しを宣言され、復活の希望を与えられ、いつも共にいて下さるという約束を聞きます。祝福を、「よい言葉」を、いつもここで聞くことが出来るのです。

そして、わたしたちも、イエスさまの「よい言葉」を頂くことによって、神さまに「よい言葉」を語る者とされます。神さまを賛美し、感謝をささげ、悔い改め、そして御名をほめたたえるのです。

この、喜びの交わり。神さまとわたしたちとの「よい言葉」を語り合う関係。この礼拝にあって、わたしたちは、イエスさまの救いの実現を見ることが出来ます。この確かな恵みは、礼拝の中でこそ、ますます深く知ることが出来るのです。

ですから、ルカによる福音書に記されていたことは、約 2000 年前の出来事というだけでなく、今ここにいるわたしたちにも実現した、イエスさまの救いの出来事です。

ルカによる福音書は、祝福を与えて下さるイエスさまを指し示し、初めから最後まで、わたしたちをこの大いなる喜びへ、神をほめたたえる礼拝へと招き、導いてきたのです。

一番最後に、「彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた」とありました。

弟子たちが、大喜びで、絶えることなく神をほめたたえていた。その礼拝は、実に今も絶えることなく、ここの礼拝に続いています。

そして、今度はわたしたちが、イエスさまを証しし、いただいた祝福を宣べ伝え、これから先も、絶えず神をほめたたえていくのです。

どんなことがあっても大丈夫です。天におられるイエスさまから祝福を頂いているわたしたちは、よい言葉を語る事が出来ます。神さまをほめたたえ、また隣人に平和を告げることが出来る者とされています。

神をほめたたえさせて下さるのは、天におられるイエスさまの祝福によるのですから、これからも、わたしたちは、イエスさまの祝福の中で、大きな喜びに包まれて、絶えることなく、神をほめたたえ続けるのです。アーメン

【お祈り】

天の父なる神さま

ルカによる福音書の御言葉を、初めから最後まで聞くことが出来ました。そこに示された、イエスさまの救いによる大きな喜び、あなたをほめたたえる礼拝への招きに、心から感謝いたします。

今日もわたしたちはイエスさまの祝福を受け、よい言葉をいただき、あなたを賛美し、礼拝する者とされていることを感謝いたします。

どうかこの喜びの群れに、一人でも多くの方が招かれますように。

絶えることなく、神さまの御名がほめたたえられますように。

わたしたちの救い主、イエスさまの御名によって祈ります。アーメン

【讚美歌】 3 3 7 「たたえよ、この日」

【信仰告白】 使徒信条

【献金】

【主の祈り】

【讚美歌】 2 8 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン